

2025/07/06（日）の中医推拿セミナー

- 一、小児推拿の治療原則・特徴・注意事項
- 二、小児推拿の腧穴
- 三、小児推拿の手技
- 四、小児便秘下痢症の改善における推拿療法の応用
- 五、推拿練功の紹介——「霸王举鼎」

一、小児推拿の臨床特徴・治療原則・注意事項

（一）臨床特徴

1. 対応迅速
2. 施療便利
3. 治療でも予防でも応用できる
4. 安全

（二）治療原則

1. 弁証論治を行う
2. 標本主従に区別する
3. 時地人に合わせる
4. 補瀉施術を重視する

（三）注意事項

1. 治療室の温度を適宜に、光線を明るいに
2. 診療の態度は温和、親切に
3. 施術者の手の清潔、指爪の長さに注意
4. 患児に落ち着かせるように
5. 施術は丁寧に、施療時間が長くしないよう
6. 中病即止、過度治療しないよう

二、小児推拿の腧穴

1. 小児推拿の腧穴の特徴

- ①小児推拿の特定穴を多用します。
- ②点の腧穴以外に「線・面」の腧穴もあります。
- ③上肢部の腧穴を主に応用します。

2. 小児推拿の腧穴の内容

- ①手部
- ②上肢部
- ③顔面部
- ④後頭部・頸部
- ⑤胸腹部
- ⑥背腰部
- ⑦下肢部

三、小児推拿の手技

1. 基本手技 ①推法 ②揉法 ③按法 ④摩法
 ⑤掐法 ⑥捏法 ⑦運法 ⑧搗法

2. 複合手技 ①打馬過天河
 ②水底撈月
 ③運水入土 or 運土入水
 ④開璇璣
 ⑤按弦走搓摩
 ⑥揉臍及龜尾併擦七節骨

四、小児便秘下痢症の改善における推拿療法の応用

(一) 診察弁証

1. 症状：排便の異常（質・量・回数）

●便秘 数日排便がない、排便困難、腹部疼痛や膨満感を伴随する。

●下痢 排便回数が増え、便の質が薄く或いは水様便、腹痛、嘔吐、未消化物が混じるなどを伴随する。

2. 病因

●便秘 ・偏食・排便習慣が悪い・体質虚弱

●下痢 ・外邪侵襲・飲食損傷・脾胃虚弱

3. 診察

●便秘 「実熱証」「食積証」「陰虚証」

●下痢 「外邪侵襲」「飲食損傷」「脾胃虚弱」

(二) 推拿施療

1. 施療原則 健脾通腸安便

脾虚：健脾益気 熱証：清熱散積 寒証：温中散寒

2. 小児推拿の処方と施療

【基本の取穴と治療】①清/補：大腸経 小腸経 300 回

②摩腹・揉臍 500 回

③捏脊 3 回

④推上/下七節骨 300 回

【弁証による取穴と治療】 外邪：寒証—揉外勞宮、推上三関・拿風池

熱証—退六腑・推大椎 各 200 回

脾虚：補脾経、胃経、腎経 揉脾俞、腎俞、足三里 300 回

傷食：清脾経 200 回； 分腹陰陽 100 回 揉足三里 200 回

【施療時の体勢】 ①施術者の体勢 ⇒ 坐勢 ②患児の体勢 臥勢 / 坐勢

【施療部位の順序】 上肢部（手）→頭部顔面→胸腹部→腰背部→下肢部

四、推拿練功の紹介——「霸王拳鼎（は おう きょ てい）」

1. 基本姿勢 立ち姿勢

2. 動作

3. 呼吸法 自然呼吸

4. 意念（イメージトレーニング） 対抗力の運用